

学園報 第69号

発行・編集
学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大 学 大学院 専攻科 〒516-8555
文学部 教育学部 三重県伊勢市神田久志本町1704
現代日本社会学部 TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校 三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

注目記事

2面

保護者対象
就職講演会・説明会を開催

3面

オープンキャンパス2017始まる

4・5面

駅伝競走部が全日本大学駅伝
大会への初出場決める ほか

6面 (高校・中学校)

ローズヒル校の生徒と
書道で交流 ほか

7面

法人・教学振興会 平成28年度 決算報告

8面

地域連携トピックス Vol.3
教育・研究の成果を地域に還元

連載

2面

皇學館人物列伝② 福井 毅

3面

研究室探訪 Vol.24
家庭教育ゼミ(駒田聡子 教授)

日程

開会の辞(9:30~) 本会会長 岡野友彦 教授

研究発表(9:35~12:15、13:00~14:30 ※一人30分)

- 1 神社祭作法「警蹕」の沿革と帰趨
本学大学院博士前期課程神道学専攻 足立 涼氏
- 2 上代文献に見られる「狭霧」の研究—『日本書紀』を中心に—
本学大学院博士前期課程国文学専攻 工藤 超氏
- 3 大嘗祭の本質—服属儀礼に対する反論—
本学大学院博士前期課程国文学専攻 京泉勇平氏
- 4 寛永期前後の伊勢湾情勢
本学大学院博士前期課程国文学専攻 梅田優歩氏
- 5 皇學館大学附属図書館蔵「長野義言尺牘」の基礎的検討
本学大学院博士後期課程国文学専攻 浦野綾子氏
- 6 大宰府成立前史をめぐって—「那津官家」と「磐井の乱」—
本学大学院博士前期課程国文学専攻 武田吉史氏
- 7 戦国期における勅願寺由緒の形成と主張
—美濃国立政寺を事例に—
本学大学院博士前期課程国文学専攻 桐田貴史氏
- 8 万葉集巻十九・四一六三番歌「霧立ち渡れ」の解釈をめぐって
本学大学院博士後期課程国文学専攻 井口日奈氏

総 会(14:40~15:20)

記念講演(15:30~17:00)

歴史的典籍NW事業の目指す到達点

講師 山本和明先生
(国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター副センター長)



研究ネットワーク構築の意義を熱く語られる山本先生

皇學館の学問を 凝集した研究発表

第十回皇學館大学人文
学會大会が七月八日、午
前九時三十分より本学四
号館四三二教室にて開催
された。会長は岡野友彦
教授、司会は遠藤慶太准
教授が務め、本学大学院
に在籍する若手研究者八
名が研究の成果を発表し
た(別表参照)。

第十回皇學館大学人文學會大会を開催

七月八日、第十回皇學館大学人文學會大会が本学において開催された。人文學會は本学文学部の教員・学生を中心に、学術雑誌『皇學館論叢』を刊行する学会。学内外の会員が活動を支えている。大会の開催は年に一度。十回目となる今年度は本学大学院の若手研究者八名による充実した研究報告が行われた。

報告では、①神社祭作法「警蹕」の在り方がどのように変遷し現在の形になったのか(足立涼氏)、②「日本書紀」に見られる漢字「狭霧」は「シヤラシヤラ」と音を立てる霧」の義ではないか(工藤超氏)、③大嘗祭の本質は農耕儀礼を伴う天皇親祭にこそあり、服属儀礼に對して疑問を呈したい(京泉勇平氏)、④家光初政下の伊勢湾近郊の状況、情勢を大名配置から捉え直す(梅田優歩氏)、⑤書簡の検討から浮かび上がる国学者らのネットワーク(浦野綾子氏)、⑥大宰府の直・間接的起源として注目されている「那津官家」設置の意義を国内、外両方の視点から考察(武田吉史氏)、⑦室町・戦国期における寺院がどのような方法で勅願寺主張を展開し、いかなる文脈でなされたのか、モデルの一つを提示(桐田貴史氏)、⑧万葉集・四一六三番歌「霧立ち渡れ」の解釈と配列の意図の考察(井口日奈氏)と、さながら皇學館の学問を凝集したかのような幅の広さ、内容の濃い報告がなされた。質疑に移るとそれぞれの分野の研究者から鋭い指摘があり、普段の学修とは違う緊張感に包まれた。同時に、準備を重ねてこの大会にチャレンジした報告者が真摯に応えようとする姿勢が印象



前列左から、新田教授、清水学長、辻村町長、小林副町長。後列左から、西谷事務局長、齋藤教授、たままろくん、田間教育長

本学と玉城町は地域の活性化と人材育成を視野

玉城町と連携協定を締結

に、包括連携に関する協定を締結。五月二十六日、旧三の丸奥書院において締結式が執り行われ、次の六項目について相互協力することを取り決めた。

- ①地域の歴史や伝統文化の振興、②地域の活性化、③教育の充実、④福祉の推進、⑤地域人材の育成、⑥その他前条の目的を達成するために必要と認められる事項。

今後の具体的な取組みとして、平成三十二年度より小学校で英語教育が義務化されることに先立

ち、英語教育推進部会の設置とあわせ、本学コミュニティ・ユニバーン学科の川村一代准教授が「英語教育推進アドバイザー」に就任。英語教育の充実に向け、支援を行う。また、町指定の文化財である「玄甲舎(金森得水別邸)の利活用について、学生、地域住民がワークショップを開催し、検討を重ねていく。

本協定の有効期間は一年間。両者から申し出がない場合は同一内容でさらに一年間更新し、その後も同様とする。

先日、バスを降りるときに乗り合わせた学生が運転士さんに「ありがとうございます」とお礼を言っているのを聞いてすがすがしい気持ちになった。▼日常の生活の中で相手に感謝の意を伝えようと思ったとき「ありがとう」が最も標準的な表現だが、わずかな十年前は少し様子が違っていた▼文化庁の「国語に関する世論調査」によれば、荷物を配達してくれた人にどのような言葉をかけるか、という質問に十年前は「ご苦労様」が半数を占めていた。しかし、最近は「ありがとう(ございます)」が半数を占めるようになったという▼荷物を配達する仕事について再配達の問題などが報じられるようになり、感謝の気持ちをより強く表せるものに切り替えているといえそうだ。加えて「ご苦労様」は目上から目下への表現であるというところが社会通念として広がっていることも要因として考えられるだろう▼「美しい日本語」として捉えられる表現に「思いやりのある言葉や「挨拶の言葉」を多くの人があげている。ちょっとした「ありがとう」を言えることが日本語の使い手として美しく誇らしいことなのである。

歴史的典籍公開の 意義大きく

その後、十五時三十分から山本和明先生(国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター 副センター長)より「歴史的典籍NW事業の目指す到達点」と題し記念講演をしていただいた。冒頭、山本先生はご専門の近世文学研究についてご紹介。

続いて、本題となる積極的に日本の典籍画像を公開する意義をお話くださった。世界と比較したデジタル・アーカイブ化の現状を踏まえると、理系の大規模研究に伍して人文学の存在意義を主張するには、研究成果を市民に向けて、いかにわかりやすく語り、発信するかが問われる。山本先生が

身近な話題を交え熱く語られたのは、人文学の置かれている厳しい現状と、従来では考えられなかった果敢な挑戦だ。折しも、人文學會では「皇學館論叢」の電子化・公開に向けて、リポジトリ事業に乗り出しており、聴講者の心に刺さる内容であった。

来々、人文學會は設立五十周年を迎える。一層活動を充実させ、研究の成果を広く発信していきたい。

はなおも足りない質疑の続きが個別に行われたほか、同時開催の「館友教員懇談会」(二面参照)の出席者も加わって、賑やかに夏の宵は更けていった。

はなおも足りない質疑の続きが個別に行われたほか、同時開催の「館友教員懇談会」(二面参照)の出席者も加わって、賑やかに夏の宵は更けていった。

はなおも足りない質疑の続きが個別に行われたほか、同時開催の「館友教員懇談会」(二面参照)の出席者も加わって、賑やかに夏の宵は更けていった。

はなおも足りない質疑の続きが個別に行われたほか、同時開催の「館友教員懇談会」(二面参照)の出席者も加わって、賑やかに夏の宵は更けていった。

第3回 皇學館大学 地(知)の拠点整備事業 公開シンポジウム

伊勢志摩で共に暮らし続けることの
ミライをかんがえあうシンポジウム

Vol.3

開催日時●平成29年9月10日(日) 13時30分~16時30分(予定)

会 場●皇學館大学 記念館

13時30分
14時
16時

Ⅰ セレモニー、学長挨拶、COC概要・進捗説明
Ⅱ シンポジウム(フューチャーセッション)
Ⅲ パネル交流会(学生や地域団体によるC/L活動紹介)

伊勢志摩圏域市町若手職員あるいは地域おこし協力隊員8名
「メンテーター」近藤玲介(教育開発センター准教授 千田良仁(教育開発センター准教授
「ファシリテーター」板井正斉(教育開発センター准教授 池山 敦(教育開発センター助教
皇學館みらい対話団

参加無料・事前申込不要・定員100名・先着順 どちらでもご参加頂けます。
お問合せ●皇學館大学 企画部 地域連携推進室 TEL 0596-22-8635

http://coc.kogakkan-u.ac.jp



先日、バスを降りるときに乗り合わせた学生が運転士さんに「ありがとうございます」とお礼を言っているのを聞いてすがすがしい気持ちになった。▼日常の生活の中で相手に感謝の意を伝えようと思ったとき「ありがとう」が最も標準的な表現だが、わずかな十年前は少し様子が違っていた▼文化庁の「国語に関する世論調査」によれば、荷物を配達してくれた人にどのような言葉をかけるか、という質問に十年前は「ご苦労様」が半数を占めていた。しかし、最近は「ありがとう(ございます)」が半数を占めるようになったという▼荷物を配達する仕事について再配達の問題などが報じられるようになり、感謝の気持ちをより強く表せるものに切り替えているといえそうだ。加えて「ご苦労様」は目上から目下への表現であるというところが社会通念として広がっていることも要因として考えられるだろう▼「美しい日本語」として捉えられる表現に「思いやりのある言葉や「挨拶の言葉」を多くの人があげている。ちょっとした「ありがとう」を言えることが日本語の使い手として美しく誇らしいことなのである。

長期的視野・個性に合った働き方を

保護者対象 就職講演会・説明会を開催

七月二十二日、本学六号館で夢の会（保護者会）主催の保護者対象 就職講演会・説明会が開催され、一五八名の保護者が来場した。

当日は二部構成で、前半の就職講演会では愛知心理教育ラボ代表取締役



満席となった講演会会場

の毛受蒼子氏が「売手市場の就活でこれだけは避けたこと・知っておきたいこと」をテーマに講演を行った。氏はまず、将来どんな仕事に就きたいのか本人と向き合っ

て子どもとの会話でのNGワードを挙げ、放任するのではなく、適切な視野で働き方を考える必要がある」と伝えた。

さらに、SNSネイティブ世代である現代の子どもたちはインターネットの情報で判断しがちだと指摘。一方で、子どもが好きなことに出会い、

やりたい仕事を見つめるには、ボランティアなどに参加して年齢や価値観の違う人と接したり、仕事の現場見学に向くなど実際に自分の目で確かめる経験が最も有効とし、保護者にできることは子どもの行動や挑戦を促し、実体験から考えを深める会話を心がけることだと助言した。

県外からも多数参加

後半は「神社」「企業・官公庁」「教員・保育士」と三つの進路に分かれ、就職活動の実績や具体的な流れ、本学の支援体制等について職員が説明した。松阪市から訪れた保

他にも就職活動のトレンドや内定をもらえない学生の特徴など現場を知る氏ならではの話に保護者らは熱心に耳を傾け

た。最後は「今後は答えのない時代を生き抜く力が必要。旧来の世間的評価軸ではなく、本人の個性に合った働き方を一緒に考えていってほしい」と締めくくった。

護者は「時代の変化が具体的に理解できた。価値観を押し付けるのではなく、一緒に考えていきたい」と話した。新潟県から駆け付けたという保護者は「遠方にいるのでア



個別相談で疑問や不安を解消

七月八日、本学卒業生で教職に就かれた館友教員八十二名を本学に招き、「館友教員懇談会」を開催した。

例年は全国九会場で実施している「館友教員懇談会」だが、四年に一度



熱心にスライドを見る参加者

は伊勢で開き、母館の様子をご覧いただきつつ、新しい取組みなどをお知らせし情報交換する催しとなっている。伊勢開催は今回で三回目だ。

当日は、午後一時からの内宮正式参拝のあと、午後二時三十分より六号館六二一教室にて大学現況報告、教育内容説明、教職支援に関する説明、入試説明、皇學館中学校・皇學館高等学校の説明を行い、学内施設見学の後、午後五時より倉陵会館二階にて懇親会を開催。盛会のうちに終了した。

参加者からは、「昔に比べ環境が整備され、学生のための様々なプログラムが用意されていること



館友同士、旧交を温めた懇親会

錦かよ子先生 文化大賞



三重県の文化振興に貢献し、優れた功績を挙げた個人・団体を讃える第十六回「三重県文化賞」に、教育学部元教授の錦かよ

錦先生、伊藤氏が 三重県文化賞受賞！

子先生が作曲や人材育成に尽力したとして最高賞の「文化大賞」を、書家・アーティストとして活躍し伊勢志摩サミット配偶者



喜びの表情を見せる錦先生(右下)と伊藤氏(左上)

によって、日本でも数少ないオペラ作曲家として育てていただきましたと心から感謝しています。また、大学でのミュージカル指導も受賞理由の一端になったと、学生に感謝しています」とコメント。伊藤氏は「三重県での十年間の活動の集大成として、このような素晴らしい賞をいただくことができ、大変光栄に思います」と喜びを語った。お二人の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

皇 學 館 | 人物列伝 | 29

福井 毅 (ふくい つよし)



大正2年福岡県生。昭和14年京都帝国大学文学部卒業。昭和20年実践女子専門学校専任講師。昭和28年実践女子大学教授。昭和40年皇學館大学教授。昭和62年皇學館大学名誉教授。1913～1998。

昭和三十七年に皇學館大学が再興され、国文学科の教室を構成する陣容の中で中世文学は軍記物研究で知られていた後藤丹治が計画されたものの着任ひと月で急逝。その後を襲ったのが福井毅である。

福井は旧姓を林というが昭和十八年に連歌研究で知られた福井久蔵の嗣子となった。久蔵没後はその蔵書整理にあたり、そのために江ノ電沿線の稲村ヶ崎や東海道線沿線の藤沢に居を構えたとされる。

穏健正統派の文学者

伊勢での講義は麻吉旅館に連泊しながらの一週一往復で行われ、はじめは夜行列車を使ったが、後に新幹線と近鉄で行き来した。伊勢へ着く頃と名古屋へ向かう頃がちょうど食事時にかかるため車内で弁当を食べるが、冬は飯粒が冷たいので懐に入れておいて体温で温めてから食したという逸話が残っている。

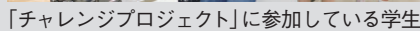
皇學館大学では中世文学の専門科目を担当し、昭和五十三年からは国文学概論を講じた。板書は常に仮名

た。一見、淡々としながらも内面に熱を帯びた講義は学生たちに憧憬と尊敬の念を抱かせた。

福井は皇學館大学を当時の停年である七十三歳まで勤め上げた。再興すぐの頃に着任した国文学科教員の中では稀有なことであった。再興期の不安定ともいえる状況の中で、福井には稲村ヶ崎や藤沢といった別世界があり、バランスの取れた精神世界を構築していたからかもしれない。

著書に『荒木田守武集』（解題、神宮古典籍影印叢刊）などがある。

（国文学科教授 齋藤 平）



クラブ活動

高校

全国大会に向け意気込み

5年ぶりに男女で団体出場

バドミントン(男女団体・個人)



私たちは7月29日から山形県新庄市、鶴岡市、尾花沢市で行われる全国総体に出場します。5年ぶりに男女で団体出場・個人出場を決めました。これまで支えてくださったコーチや先生方、保護者の方々への感謝の気持ちを忘れず、全力プレーで応えます。3年生は最後となるこの大会で悔いを残さず、2年生は次への一歩となるように、最後まで諦めずに頑張りたいと思います。

(3年3組・大谷啓斗)

私たち女子は今回2年ぶりに団体・個人ともインターハイに出場します。団体ではチーム一丸となり、協力して少しでも多く勝てるように頑張ります。個人では私はダブルスに出場します。今まで一緒にやってきた仲間のためにも良い成績を残し、これまで練習してきた集大成として全力を出したいと思います。

(3年1組・梅村愛理)



勝利という形で恩返し

剣道(男子個人・女子団体)

2年前、1年生ながら先輩方と出場できた和歌山インターハイの団体戦。とても素晴らしい経験となりました。自分が3年生となり、今度は我々がという気持ちで頑張ってきましたが、団体戦ではあと一歩及ばずとても悔しく、無念な結果となりました。

幸い、私は個人戦で出場させてもらうことになり、先生や保護者の方々、そして、天国の母への感謝の気持ちを勝利という形で恩返しができるように、仲間たちの思いを胸に、精一杯頑張ってきました。

(3年3組 和田優人)

一度、女子剣道部の歴史が途絶えたあと、平成24年4月、新たに皇學館高校女子剣道部がスタートしました。当時、1年生ながら主将を務めたのは船見菜々子先輩です(現立命館大学3回生、私も先輩と同じ阿山町出身)。その櫓は北川幹菜先輩・玉野成美先輩、そして私へと引き継がれてきました。先輩方の熱い思いと、尾上先生・岩脇先生、保護者の方々への感謝を込めて、インターハイを部員一丸となって、精一杯頑張ります。

(3年3組 境井菜美樹)



先生・先輩・仲間の想いを背負い、畳の上に立つ

柔道部(女子個人)

昨年、全国総体に先輩が出場するのを間近で見て憧れを持ちました。その後、山崎先生のご指導のもと、日頃の稽古や遠征を経て、全国総体は憧れから目標となりました。そして迎えた5月28日の三重県総体では、先生や仲間たちの声援に支えられ、何とか優勝することができました。私は今回、女子48kg級に出場します。個人戦とはいえ、私一人ではなく、今までご指導いただいた先生方や先輩方、そして仲間たちと一緒に全国総体の畳の上に立つつもりで挑みます。

(2年3組 瀬古蘭奈)



新たな視点、見方を学び、生かしたい

写真部

宮城県仙台市で7月31日から8月3日にかけて開催される第41回全国高校総合文化祭に写真部門で参加させていただきます。私は高校入学後に写真の活動を始めたのですが、ここまで成長できたのは先生の指導をはじめ、周りの方々の協力のおかげだと心から思っています。この文化祭では全国から寄せられた写真を見たり、他県の高校生と交流することで自分自身の写真に対する考え方はきっと大きく変わるだろうと思います。多くのことを見て聞いて感じて、今までの自分ない新しい写真の見方を発見したいと思います。

(3年7組 坂中奈波)



高校に入って入部したので写真についてまだまだわからないことも多く、今回の全国大会への参加を新しいことを学ぶ一つの機会としたいと思います。約300点に及ぶ他県から出品されたさまざまな作品を見て、写真についての視点を広げ、テーマの選び方、光の扱い方について学びたいと思っています。今回の全国大会を通して学んだことを今後の作品づくりに生かし、今まで以上に活動に励みたいです。

(2年4組 向原千裕)



平成30年度 生徒募集要項

皇學館高等学校

募集人数	340名(6年制内部進学者を含む)
入学資格	中学卒業者および平成30年3月卒業見込みの者
募集コース	●進学コース ●特別進学コース ※詳細はHPをご確認ください
出願期間	平成30年1月9日(火)～16日(火) 午前9時～午後3時(土日および祝日は除く)
出願手続	①入学願書(本校所定の用紙) ②学習の記録(本校所定の用紙) ③受験料 12,000円(本校所定の用紙(郵便振替)にて、ゆうちょ銀行窓口で、お納めください。コンビニエンスストアでの納入については「受験料コンビニ支払い」を参照してください)
入学試験	日 時 平成30年1月30日(火) 午前9時～
	教 科 国語、数学、英語、理科、社会 ※詳細はHPをご確認ください
	方 式 マークシート方式
試験会場	(本会場) 皇學館高等学校
	(津会場) 大原簿記医療観光専門学校(津駅西口より徒歩1分)
合格発表	平成30年2月6日(火)に合格通知を各中学校と本人宛に発送します (電話によるお問い合わせには、お答えできません)
入学手続	平成30年2月19日(月) 午後3時までに、入学金45,000円を納入してください(本校所定の用紙にて、必ず銀行窓口でお納めください)

特 典

皇學館大学への進学希望者には、附属高校特別推薦枠・入学金半額免除などの特典があります。

推薦及び特別奨学生について

- ①特別進学コース・進学コース、それぞれのコースに推薦制度(専願)があります。
- ②所属中学校長の推薦書により、学業・人物優秀と認められる生徒に対しては、学力特別奨学生、また顕著な競技実績をもつと同時に、本校の授業内容を習得できる学力を有し、人物優秀な生徒に対しては、スポーツ・芸術推薦およびスポーツ・芸術特別奨学生の制度があります。

オープンスクール

本校では、下記の通り学校見学会を実施しています。また、下記日程以外の見学も可能です。詳しくはお問い合わせ下さい。

第1回「皇學館を知ろう!」
平成29年9月2日(土)・3日(日)

※3日(日)は皇學館中学校との合同開催

内容●学校説明および校舎見学、入試説明、吹奏楽部によるミニコンサート など

第2回「入試問題を知ろう!」
平成29年10月8日(日)

第3回「クラブ活動を知ろう!」
平成29年11月19日(日)

- ◆筆記用具、スリッパをお持ちください。
- ◆参加者の皆さんには学生食堂での昼食を準備しています。
- ◆校舎見学後のクラブ活動の見学も承っています。
- ◆保護者の方々もご参加いただけます。

6年一貫教育 皇學館中学校

	A日程		B日程
	一 般	専 願	
募集人数	A日程(一般・専願)・B日程合わせて 70名		
入学資格	平成30年 3 月小学校卒業見込みの児童(男女共)		
出願手続	●入志願票(本校所定の用紙) ●受験料 12,000円(ゆうちょ銀行かコンビニエンスストアでお納めください)		
出願期間	平成29年 12月4日(月)～27日(水) 午前 9 時～午後 3 時(土曜日は正午まで) ※12月 9 日(土)・10日(日)・17日(日)・23日(祝)・24日(日)を除く ※郵送の場合は12月27日(水) 午後 3 時必着とします	平成30年 1月22日(月)～31日(水) 午前 9 時～午後 3 時 ※ 1 月27日(土)・28日(日)を除く ※郵送の場合は 1 月31日(水) 午後 3 時必着とします	
出願方法	【持参する場合】 出願書類を取りそろえ、所定の封筒に入れて学校事務室へ持参 【郵送する場合】 出願書類と受験票返信用封筒(住所氏名の記入、返信切手)		
試験日時	平成30年 1 月 6 日(土) 午前 9 時～	平成30年 2 月 3 日(土) 午前 9 時～	
試験教科	国語、算数、理科、社会	国語、算数、面接	国語、算数
可否発表	平成30年 1 月 9 日(火)	平成30年 2 月 6 日(火)	
	郵送による(電話によるお問い合わせにはお答えできません)		
入学手続	入学金45,000円 + 教育充実費200,000円 = 合計 245,000円 (所定の用紙にて銀行窓口でお納めください)		
学 費 (月額)	●授業料 23,000円 ●教育充実費 8,500円 ●その他 4,300円(保護者会費、後援会費、校友会費、図書費 等)		

特別奨学生制度

人物優秀で、次のいずれかの基準を満たす者から選考し、教育充実費(入学時)、及び教育充実費の納付相当額を授与します。

- ①小学校長または学習塾長から学業成績が特に優秀であると推薦され、入学試験の成績が優秀な者(専願に限ります)
※小学校時の英語学習に関して、英検などの英語外部試験で優秀な成績を収めている場合、成績証明書を添付して提出することで審査の優遇を受けることができます。
- ②入学試験の成績が特に優秀な者

第2回 オープンスクール
～皇學館で楽しい体験をしよう～

平成29年9月3日(日) 10:00～
内容●体験授業、学食体験、部活体験、学校説明 など
※HPにて申込が必要になります。約1カ月前から受付開始予定です。

皇學館デー

平成29年9月18日(月祝) 14:00～19:00(予定)
場所●三重県文化会館
内容●高校吹奏楽部発表、中高大の学校説明

皇中祭(文化祭)

※本校に入学希望する小学生とその保護者 見学可能
平成29年10月21日(土)・22日(日) 9:00～
場所●本学記念講堂、校舎
内容●合唱コンクール、クラス展示、催事 など

皇學館 Pick Up

夏はスポーツや部活動が盛んになる季節。目標に向かってときに笑い、ときに泣きながら、チーム一丸となって練習に励んできた学生・生徒たち。今回は、そんな彼らによるもう一つの“熱い夏”を紹介します。



大願成就！全日本大学駅伝大会への初出場決める

駅伝競走部

秩父宮賜杯第49回全日本大学駅伝対校選手権大会東海地区選考会が7月9日、名古屋市のパロマ瑞穂陸上競技場で行われ、本学が創部11年目、日比勝俊監督就任7年目にして見事、本大会への初出場を決めた。

同選考会には2つの出場枠をめぐり13大学が参加。1万メートルを各校8名が走り、タイムを競った。本学は首位の愛知工業大学に続き、4時間20分40秒の成績で2位となり、念願の全日本大学駅伝初出場への切符をつかんだ。

日比監督は「これまで応援いただいた方々と一緒に喜びを分かち合いたい。本戦では皇學館旋風を巻き起こすので、ご声援をよろしくお願い致します」と語り、主将の田中雄也君(教育4年)は「このチームで出場できてよかった。順位を1つでも上げられるよう、レベルアップしていきたい」と気を引き締めた。

翌10日の報告会で清水潔学長は「『駅伝』の命名者は第6代神宮皇學館館長武田千代三郎先生。この歴史の重みを背負い、熱田神宮から伊勢神宮まで駆け抜けて欲しい」と激励。監督と選手たちを労った。

熱田神宮から伊勢神宮へは8区間106.8キロ。襷をつなぐ全日本大学駅伝は、11月5日(日)午前8時5分にスタートする。



創部初の快挙！女子が5強入り

柔道部

6月24日、25日に日本武道館で開催された「全日本学生柔道優勝大会」に本学柔道部が出場。女子3人制において創部初の快挙となる5位入賞を果たした。佐藤武尊監督は「2名は大会直前まで教育実習に行き、学生としての本分を全うしながら調整してきた。また、チーム内満身創痍の中、主将を中心に励まし合い、フォローしながら試合に挑めた。このチーム力が今大会の結果と試合内容に大きく影響したように思う」と振り返る。

男子についても初戦から強豪・桐蔭横浜大学にあたりスコアこそ3-1で敗れはしたものの、「十分に闘えるという感触を得る事ができたので、今回の敗戦に失望や落胆はありません」ときっぱり。「心の底から全員が悔しがっている姿こそ成長している証」と語り、主将の大木雅人君(教育4年)も「男女ともにもっと上をめざすことができるチーム」と闘志を燃やす。シーズンは始まったばかり。これからの活躍を注視したい。



日本学生対校陸上競技選手権大会に 男子十種・砲丸投、女子棒高跳が出場確定

陸上競技部

陸上競技部は昨年度、参加した主要な全国大会全てで入賞することができた。今年度はその勢いのまま様々な全国レベルの大会に複数の部員が参加したが、入賞は6月の田島記念陸上(山口県)の男子やり投で濱崎優紀君(教育2年)が2位に入ったのみで、あまり芳しい成績は残せていない。

その原因として、「ケガ」で実力が発揮できなかったことが考えられたため、今年度から外部指導者としてトレーナーの方にも入っていただくことになった。その成果もあり、7月の三重県陸上競技選手権大会では男子走高跳、女子棒高跳、女子400mRの3種目で選手権を獲得、他にも男子15名、女子10名が入賞し、続く8月の東海陸上競技選手権大会に出場できることになった。

陸上競技部の最大の目標は、9月に行われる日本学生陸上競技会の最高峰・日本学生対校陸上競技選手権大会(日本インカレ)だ。今年度は男子十種競技、男子砲丸投、女子棒高跳ですでに出場を決め、女子100mと女子400mRでもその参加標準記録にあと100分の5秒まで迫っている。陸上競技部はこれからも全国大会に出場するだけでなく、1つでも多くの入賞を目指して頑張っていきたいと思う。今後とも応援していただければ幸いである。



クラブ活動 | 大学

学生のための祭典を…

夏越大祓式を実現

祭式研究部

6月30日、祭式教室にて、厳粛な空気の中、夏越大祓式が執り行われた。大祓は年に2回、日常生活において無意識に犯した罪や穢れを祓い、心身ともに清らかな姿に立ち返る神事である。とくに上半期の穢れを祓う大祓は6月の末日に行われるため、夏越大祓、あるいは六月晦日大祓と呼ばれている。律令時代に宮中祭祀として行われていたものであるが、現在は全国の民間神社でも行われており、本学においても大祓式の祝詞を記したものがみついていることから、かつては行っていたのではないかと考えられているが、定かではない。

祭式研究部ではこれらの歴史を鑑み、また、学生のための祭典を多く行っていきたいとの思いから、その試みの一つとして大祓式の斎行を企画。先生方からの支援をいただき、このたびの実現に至った。式には学部を問わず30人ほどに参列いただき、滞りなく執り納められた。

大祓式の斎行は罪穢れを祓うという本義とともに、皇學館らしさの実現、あるいは先生方や学生に神道や祭典への興味関心を持ってもらうきっかけとして、大きな意味を成すものであってほしいと願っている。

(祭式研究部 神道3年・坪田真輝)



参列者は配られた形代(かたしろ)に息を吹きかけて穢れを移した。また、大麻(おおぬぎ)を用いて参列者を始め構内を祓い清めた

ソフトバレーボール大会 | 中学校

赤・黄・青組が同率優勝！縦割り班で学年を超え協力



ソフトバレーボール大会が4月の自然体験学習(朝熊山登山)と同じく縦割り班(4リーグ)で実施されました。ポイントが決まると先輩が1年生にハイタッチするなど、学年の枠を超えたチームワークが印象的な大会でした。

- 初めての縦割り班でのスポーツ大会。赤組のCリーグに出場した私たちはみんなで声を掛け合い、頑張ったら優勝することができました。とても嬉しかったです。(3年A組 田中沙都紀)

- ソフトバレーボール大会では1年生でもサーブがとても上手な人がたくさんいて驚きました。最後は黄チームが同率で総合優勝することができて、良かったです。(3年A組 臼杵小奈津)

- 初めての縦割り班でどうなるか分からなかったけど、協力してできたと思います。リーグ順位が2位で悔しかったけど、総合優勝をすることができとても嬉しかったです。(3年A組 堀内もも)

- とても暑い体育館の中でのソフトバレーボール大会でした。応援は今までで

いちばん声を出し、1年生に対しても声掛けを頑張ってみました。

(3年B組 谷口紗保)

- 初めての縦割り班でのスポーツ大会でした。みんなで協力することができたし、Dリーグでは青組がリーグ優勝、総合優勝ができ嬉しかったです。

(3年B組 西山朱音)

- 先輩として上手くまとめられたかはわからないけど、たくさんコミュニケーションをとれたのでとても良かったです。

(3年B組 堀出萌絵)

皇高 NEWS

ローズヒル校の生徒と書道で交流

六月一日から六日までの五日間、本校の姉妹校であるオーストラリア・メルボルン市のローズヒルセカンダリーカレッジから生徒十五名と教員二名が来校した。生徒らは約二週間の日程で来日し、東京、広島、京都などを見学して最後に伊勢に滞在。伊勢では神宮参拝や茶道体験など日本の文化に触れ、本校で朝礼や終礼、英語の授業などに参加して日本の学校生活を体験し、週末はホストファミリーとなった本校生徒と一緒に過ごした。

五日の午後には、書道の授業を体験。ローズヒル校の生徒とホスト生がペアで出席し、先生が日本語で説明した内容をホスト生が通訳しながら進んだ。まずは書道の道具とその扱い方について説明があり、その後、実際に筆を使って縦線、横線などを書く練習をして徐々に慣れていった。練習の後は、「侍」「龍」「夢」など事前に用意された漢字の中から各自が好きなものを選び、色紙に清書して作品を制作した。生徒らは筆の扱いや漢字のバランスに苦勞しながらも、ホスト生と一緒に作品を書き上げた。

留学生のライアン・ハーパー君は「日本文化を学びたくて来日した。週末に伊賀市の上野城や忍者屋敷を訪れ、独自の文化や町並みに触れたことが楽しかった」と語った。



上/動かし方を丁寧に説明
下/作品を手に笑顔のライアン君

ホスト生の三年・志村日向君は「事前に人となりを想像して、名前に『雷鞍』と漢字を当ててプレゼントした。気に入ってもらえてよかった」と語った。マケイラ・ワットさんは「日本の生活ではいろいろなところに木が使われているのが印象的だった」と語り、ホスト生の二年・田中玲美さんは「どのように過ごすか家族と直前まで悩み、回転ずしやショッピングセンターなどで多彩な『初体験』ができるプランにした。コミュニケーションを取るなかで、知らない英語が多いことに気づき、もっと英語を学びたいと感じた」と語った。

最新の情報で進路対策

保護者対象進路説明会



苦戦しながらも、力作揃いとなった書道体験

保護者対象の進路説明会が三年生は五月七日、一・二年生は六月四日に実施され、参加者がそれぞれ百四十名、二百二十名を超すなど非常に有意義な会となった。



満席となった進路説明会

試の基礎知識」と題して講演。受験生が保護者に望むことと、最新のデータを元に語った。

進路指導部からは昨年度の本校の入試実績や志望の傾向等について、また学年主任からは授業風景や遠足などの行

事、放課後の学校生活について報告させていただいた。本学では引き続き変化の激しい入試情報を入手・分析し、適切な指導で生徒の皆さんの進路選択の応援を続けていく。

中高が合同で神宮参拝

六月十六日、月次祭にあわせ中学校、高校の神宮参拝が行われた。生徒たちは厳肅な雰囲気を保ちながらクラスごとに整列。宇治橋から内宮、こ



上/こ正宮に参拝する皇中生たち
下/内宮フィールドワーク(皇中)

正宮まで玉砂利の参道を踏みしめながら進み、参拝を済ませることができた。



全員で記念撮影

中学校生活が始まって約三カ月。友だちとは少しずつ慣れ、協力して行動し、休み時間も話す機会が増えてきた。しかし、まだお互いを知らないことも多い。そんな中での初めての宿泊研修。失敗したり、自分勝手な行動を取ってしまった、みんなに迷惑をかけてしまったらどうしようなど、不安がたくさんあった。その反面、楽しみでもあった。そして迎えた宿泊研修当日、

協力して取り組めた

一年B組 鈴木 里奈

一年B組 天野 花梨

私は緊張しながら参加した。けれど、昼食や外国語活動、野外炊飯などをしていくうちに緊張もなくなり、楽しみにしていたシールやクイズや学年レクもみんなと協力して取り組むことができた。しかし、事前指導で人の話はしっかりと聞くように言われていたのに守れていない場面もあったのでこれから直していきたい。今回学んだことを今後に生かしていきたいと思う。

研修を通して「気づき」

宿泊研修

一年生三十二名が六月二十二日から二十三日にかけて、一泊二日の日程で「ともやま公園キャンプ村」へ宿泊研修に行った。以下に生徒の感想を紹介する。

自分ではなく、皆ができることが大切

宿泊研修で全てに共通する大切なことを見つけた。それは、皆で協力し、できていない所があれば声をかけ合うことだ。また、これは個人の反省点でもある。自分では大きな声で言ったつもりでも、周りに聞こえておらず、何を言っているのか理解してもらえない。



熱心に話を聞く生徒たち

「進路講話」では各自が中学・高校時代を振り返り、全校生徒たちの参考になればと

誠実に思いを語った。勉学には計画性を持って自主的に取り組むこと、進路について高い意識を持つこと、さらに部活動などを通じて仲間たちと励まし合って成長することの大切さなどを語った。

二名の実習生が奮闘

教育実習

六月十二日から七月一日にかけて二名の実習生が三週間の教育実習を行った。始まっ



熱心に話を聞く生徒たち

「進路講話」では各自が中学・高校時代を振り返り、全校生徒たちの参考になればと

誠実に思いを語った。勉学には計画性を持って自主的に取り組むこと、進路について高い意識を持つこと、さらに部活動などを通じて仲間たちと励まし合って成長することの大切さなどを語った。

平成28年度 収 支 決 算 報 告

学校法人皇學館の平成28年度決算は、平成29年 5 月29日(月)開催の理事会で承認されましたので、ここにその内容を公表します。

なお、公式ホームページ(http://www.kogakkan-u.ac.jp)の大学概要のIR情報「事業報告平成28年度」にて、教育研究機関・事務組織・入学生数・在籍者数・卒業生数・進路(就職)状況及び法人の事業実績、財務の概要説明等を公開しておりますので、併せてご覧ください。

平成28年度収支決算書は、以下のとおりです。

1 資金収支計算書

この計算書は、企業会計におけるキャッシュフロー計算書に近いもので、当該会計年度の研究活動及びその活動に付随する全ての資金の動きと内容を明らかにすることを目的としています。

資金収支計算書(法人全体)

平成28年 4 月 1 日～平成29年 3 月31日				単位：千円
科 目	予 算	決 算	差 異	
●収入の部				
学生生徒等納付金収入	3,888,088	3,866,072	22,015	
手数料収入	69,868	80,569	△10,701	
寄付金収入	125,900	135,503	△9,603	
補助金収入	645,443	637,924	7,518	
資産売却収入	0	0	0	
付随事業・収益事業収入	33,132	37,956	△4,824	
受取利息・配当金収入	12,259	15,743	△3,484	
雑収入	280,249	310,907	△30,658	
借入金等収入	0	0	0	
前受金収入	624,563	737,651	△113,088	
その他の収入	156,294	156,680	△385	
資金収入調整勘定	△828,782	△856,864	28,082	
当年度資金収入合計	① 5,007,014	5,122,144	△115,130	
前年度繰越支払資金	2,199,754	2,199,754		
収入の部合計	7,206,768	7,321,898	△115,130	

●支出の部				
人件費支出	2,829,607	2,824,108	5,498	
教育研究経費支出	883,395	849,578	33,816	
管理経費支出	453,196	445,275	7,920	
借入金等利息支出	2,407	2,406	1	
借入金等返済支出	43,750	43,750	0	
施設関係支出	81,759	74,420	7,338	
設備関係支出	200,477	185,451	15,025	
資産運用支出	523,341	532,979	△9,638	
その他の支出	160,664	158,856	1,808	
〔予備費〕	(0) 20,000		20,000	
資金支出調整勘定	△84,031	△75,727	△8,303	
当年度資金支出合計	② 5,114,565	5,041,098	73,466	
翌年度繰越支払資金	2,092,203	2,280,800	△188,596	
支出の部合計	7,206,768	7,321,898	△115,130	
当年度資金収支差額	①－②	107,551	81,046	△188,596

2 事業活動収支計算書

この計算書は、企業会計における損益計算書にあたるもので、学園の経営状況を表し、平成28年度における事業活動収支の均衡状況とその内容を明らかにするものです。学校法人会計基準の一部改正に伴い、従前の消費収支計算書が変更され、事業活動収支を「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」に区分し、企業会計により近い形式となっております。

事業活動収支計算書(法人全体)

平成28年 4 月 1 日～平成29年 3 月31日					単位：千円
	科 目	予 算	決 算	差 異	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	3,888,088	3,866,072	22,015	
	手数料	69,868	80,569	△10,701	
	寄付金	117,850	91,992	25,857	
	経常費等補助金	620,035	612,516	7,518	
	付随事業収入	33,132	43,068	△9,936	
	雑収入	302,116	334,854	△32,738	
	教育活動収入計	5,031,089	5,029,073	2,015	
事業活動支出の部	人件費(退職給与引当金繰入額)	2,829,166(88,639)	2,824,144(89,117)	5,021(△478)	
	教育研究経費(減価償却額)	1,390,552(507,157)	1,391,473(539,566)	△921(△32,409)	
	管理経費(減価償却額)	487,662(34,466)	480,295(35,020)	7,366(△554)	
	徴収不能額等	0	0	0	
	教育活動支出計	4,707,380	4,695,914	11,465	
	教育活動収支差額	323,709	333,159	△9,450	
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	12,259	15,743	△3,484	
	その他の教育活動外収入	0	0	0	
	教育活動外収入計	12,259	15,743	△3,484	
事業活動外支出の部	借入金等利息	2,407	2,406	1	
	その他の教育活動外支出	0	0	0	
	教育活動外支出計	2,407	2,406	1	
	教育活動外収支差額	9,852	13,337	△3,485	
経常収支差額		333,561	346,497	△12,936	

科 目		予 算	決 算	差 異
特 別 収 支	事業活動収入の部			
	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	42,958	81,395	△38,437
	特別収入計	42,958	81,395	△38,437
	事業活動支出の部			
	資産処分差額	13,651	13,655	△4
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	13,651	13,655	△4
	特別収支差額	29,307	67,739	△38,432
	【予備費】		(0) 20,000	
基本金組入前当年度収支差額		342,868	414,237	△71,369
基本金組入額合計		△255,520	△262,043	6,523
当年度収支差額		87,348	152,193	△64,845
前年度繰越収支差額		△3,615,059	△3,615,059	0
基本金取崩額		0	64,000	△64,000
翌年度繰越収支差額		△3,527,711	△3,398,865	△128,845
【参考】				
事業活動収入計		5,086,306	5,126,213	△39,907
事業活動支出計(予備費含む)		4,743,438	4,711,976	31,461

3 貸借対照表

この計算書は、決算日における資産及び負債、純資産の内容及び在り高を明示し、学校法人の財政状態を明らかにすることを目的としています。なお、学校法人会計基準の一部改正により、固定資産の中科目として「特定資産」が追加されています。

貸借対照表

平成29年 3 月31日					単位：千円
科 目	本年度末	前年度末	増 減		
●資産の部					
固定資産	16,485,372	16,289,225	196,146		
有形固定資産	12,469,271	12,787,494	△318,222		
土地	551,349	551,349	0		
建物	8,539,576	8,806,044	△266,468		
構築物	565,387	604,660	△39,273		
教育研究用機器備品	733,753	770,409	△36,655		
管理用機器備品	111,820	121,739	△9,919		
図書	1,936,514	1,907,809	28,705		
車両	30,869	25,481	5,387		
特定資産	3,976,294	3,465,807	510,486		
第 3 号基本金引当特定資産	132,040	124,040	8,000		
退職給与引当特定資産	1,233,365	1,233,365	0		
施設維持引当特定資産	1,228,674	928,674	300,000		
学園財政調整引当特定資産	700,000	500,000	200,000		
学生寮施設維持引当特定資産	122,815	117,532	5,283		
教学振興基金引当特定資産	150,000	150,000	0		
篠田学術振興基金引当特定資産	71,492	70,581	910		
津田学術振興基金引当特定資産	320,619	322,435	△1,816		
奨学金引当特定資産	17,286	19,178	△1,891		
その他の固定資産	39,806	35,923	3,882		
電話加入権	3,959	3,959	0		
有価証券	9,596	9,596	0		
敷金	5,620	5,620	0		
差入保証金	5,016	4,960	56		
預託金	10,000	10,000	0		
長期未収入金	3,600	0	3,600		
長期貸付金	2,015	1,788	226		
流動資産	2,868,583	2,779,512	89,071		
現金預金	2,280,800	2,199,754	81,045		
補助活動支払資金	318,382	307,809	10,573		
研修旅行費等預り資産	129,373	128,053	1,319		
未収入金	132,878	140,832	△7,953		
販売用品	6,526	1,414	5,112		
短期貸付金	623	1,648	△1,025		
立替金	0	1	△1		
資産の部合計	19,353,956	19,068,738	285,217		
●負債の部					
固定負債	1,274,037	1,394,455	△120,418		
長期借入金	43,750	87,500	△43,750		
退職給与引当金	1,122,380	1,146,291	△23,910		
長期未払金	107,906	160,664	△52,757		
流動負債	1,130,541	1,139,142	△8,600		
短期借入金	43,750	43,750	0		
未払金	128,485	156,520	△28,035		
前受金	737,651	720,386	17,265		
預り金	220,654	218,485	2,169		
負債の部合計	2,404,578	2,533,598	△129,019		
●純資産の部					
基本金	20,348,242	20,150,199	198,043		
第 1 号基本金	19,886,202	19,632,159	254,043		
第 3 号基本金	132,040	124,040	8,000		
第 4 号基本金	330,000	394,000	△64,000		
繰越収支差額	△3,398,865	△3,615,059	216,193		
翌年度繰越収支差額	△3,398,865	△3,615,059	216,193		
純資産の部合計	16,949,377	16,535,139	414,237		
負債及び純資産の部合計	19,353,956	19,068,738	285,217		

- 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。
- 貸借対照表の注記は省略しています。

● 専の会総会
翌五月二十一日には本学記念講堂において専の会総会が開催された。文学部二〇七名、教育学部

役職名	氏 名	学生名	学科・学年
会 長	西 井 清 明	亮太朗	コミュ4年
副会長	奥 山 宗 司	玲 加	教育 4 年
会 計 監 査	大 森 守 部	友佳子	神道 3 年
上 村 野 記 久 啓	見 一 朗	神道 4 年	
告 白	彩 華	国史 3 年	

人事異動 大学 配置換

7月1日付	総務部主事	諸岡 大輔	〔学生支援部主事〕
	学生支援部主査	高木 曹慈	〔総務部主査〕
8月1日付	事務局次長	木村 成吾	※企画部長 兼務

教学振興会 平成28年度 決 算 報 告

ご 挨拶
平素より本学園の教育・研究活動に対し、格別のご高配を賜り、謹んで厚く御礼申し上げます。
さて、教学振興会につきましては、多くの方々のご入会、ご支援をいただき、改めまして心から厚く御礼申し上げます。
平成二十八年度におきましても、教学振興会支援事業は、六つの柱を基軸とし、教育研究の充実をはじめ、さまざまな事業を展開して参りました。その中でも、①国際交流の推進(イギリス・ニュージーランド・カナダ・オーストラリア他への海外留学や海外インターンシップ)、②地域社会貢献活動(伊勢志摩定住自立圏共生学他)、③学生・生徒の修学支援(学生プロジェクト・神職養成のための実習充実他)等に取り組むことが出来ました。
これも、ひとえに皆さま方のお力添えによる賜物と感謝申し上げます。
今後とも「教学振興会」への温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

教学振興会収支決算書

平成26年 9 月 1 日～平成29年 3 月31日

収入決算額累計(平成26年 9 月 1 日～平成29年 3 月31日)	129,366,000円
支出決算額累計(平成27年 4 月 1 日～平成29年 3 月31日)	69,668,579円
平成28年度支出決算額(平成28年 4 月 1 日～平成29年 3 月31日)	40,897,459円

収入の部

平成29年 3 月31日現在

区分	H26		H27		H28		H26～H28合計
	寄付 件数	金額(円)	寄付 件数	金額(円)	寄付 件数	金額(円)	金額(円)
宗 教 界	186	28,490,000	258	38,610,000	228	25,690,000	92,790,000
企 業	26	1,360,000	28	1,580,000	27	2,420,000	5,360,000
館 友	275	2,805,000	250	3,030,000	432	4,901,000	10,736,000
専の会会員	219	1,860,000	341	2,500,000	349	2,525,000	6,885,000
高等学校 保 護 者	81	580,000	96	735,000	103	780,000	2,095,000
中 学 校 保 護 者	34	280,000	38	295,000	36	310,000	885,000
一 般 (篤志家等)	4	120,000	11	3,205,000	7	390,000	3,715,000
教 職 員	108	1,935,000	187	2,385,000	214	2,580,000	6,900,000
合 計	933	37,430,000	1,209	52,340,000	1,396	39,596,000	129,366,000

※日本私立学校振興・共済事業団 受配者指定寄付金金額を含む。

※日本私立学校振興・共済事業団 受配者指定寄付金金額を含む。

支出の部		平成28年 4 月 1 日～平成29年 3 月31日	
区 分		金額(円)	
①建学の精神を活かした研究活動の振興と教育の質の改善と保証		2,778,130	
②神宮並びに神道研究の情報拠点の形成		2,041,203	
●神宮、神道に関する文献資料の収集整理		2,041,203	
③国際交流の推進と日本文化発信人材の育成		17,995,164	
●学生・生徒の海外留学に対する助成		11,209,868	
●国際交流協定大学等との交流事業に対する助成		5,344,716	
●外国人留学生に対する奨学援助		1,440,580	
④地域社会貢献活動と伝統文化継承人材の育成		8,263,568	
●学生・生徒の社会貢献活動に対する助成		525,766	
●[伊勢志摩定住自立圏共生学]教育プログラムによる地域貢献人材の育成		6,720,165	
●地域社会貢献組織の整備に対する助成		1,017,637	
⑤学生・生徒の修学支援		9,819,394	
●学生・生徒に対する奨学援助		8,000,000	
●学修(習)奨励や課外活動等への助成		1,819,394	
合 計		40,897,459	

した。

六月十五日に開催された「平成二十九年度大学院奨学生激励会」で清水潔学長は「第一回大学院奨学生に選ばれた名譽ある諸君には**毬勉**努力、いよいよ研鑽に励み、優れた學術成果を挙げることに、また、皆さんの学問研究姿勢と人格が学部生の模範となることを期待する」と述べ、橋本雅之学生部長は「諸君には二十年後、三十年後の本学を背負って立つという氣概を持ち、またその期待に応えねばならない重い責任があることを胸に刻んでほしい」と励ました。

奨学生らは一様に表情を引き締め、激励の言葉にじっと耳を傾けていた。

した。